

「青少年福祉センターの歴史と、これからの課題」

理事 遠藤浩 (全国自立援助ホーム連絡協議会代表)

I. 青少年センターの歴史

青少年福祉センターの出発点は昭和33年に東京豊島区に建ち上げられた「アフターケアセンター」(後の新宿寮)に端を発している。「アフターケアセンター」のできる4年前の昭和29年は中学を卒業したばかりの少年少女622人を乗せた8両編成の就職専用列車が青森駅から上野駅に向けて出発した集団就職列車の第1号車が出た年である。

彼らは当時金の卵と呼ばれていた。この「金の卵」という言葉は雇用者側の論理によって生まれたものであり、決して彼ら自身を言い表している言葉ではない。彼らの就職先は殆どが中小・零細企業で、当然住み込みとなるわけだが、賃金は3千円～4千円。当時の高卒初任給の平均が1万1千500円であったことを見てもいかに安かったかわかるであろう。集団就職をしてきた人たちの中には「金の卵」と呼ばれることを今でも嫌がる人がかなりいる。歌手の井沢八郎が歌った「あゝ、上野駅」という歌が集団就職者の愛唱歌となった裏には「くじけちゃいけない人生は」という歌詞が、この集団就職列車に乗って上京してきた青少年少女たちの心情を一番現わしていたからであろう。職人になるための修行と酷使に耐えきれずに辞めてしまう子が多くいたことは想像に難くない。お金が無くなったら社会からドロップアウトしてしまうことは自らが分かっていたことでもであろう。

そんな時に、この子どもたちを放っていたらいけないと路頭に迷っている少年たちのために四畳半一間を借りて、取り敢えず「寝かせる、食べさせる、再就職先を見つける」という救援活動を始めたのが長谷場先生と、同じ境遇(戦災孤児)の青年たちであった。これがアフターケアセンターの出発点であるが、当時はどこからも援助の手はなく、まさに慈善事業そのもので、長谷場先生が英語塾をはじめて資金を工面したり、青年たちと廃品回収をしながらの運営費で賄われていたのである。

また、昭和45年には中学卒業という学歴で何ら技術を持っていない少年たちのために自動車整備高等職業訓練校を設立し、昭和56年にはその

職業訓練校が「暁星学園」という養護施設として認められた。職業訓練校を併設した日本でただ一つの養護施設である。

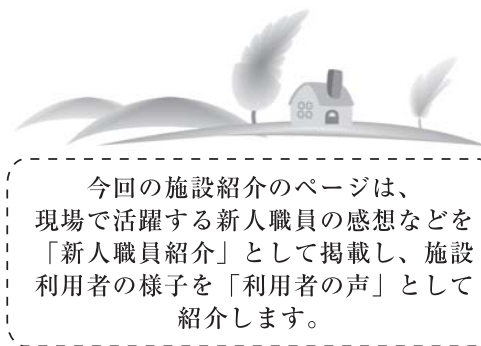
自立援助ホームも日本に一つしかなかったのだが、昭和42年には世田谷区に「三宿・憩いの家」が創設され、昭和59年に東京都が「東京都自立援助ホーム実施要綱」を作成し、このときはじめて自立援助ホームという名称がつけられ補助金が交付されたのである。これは働く青少年のための福祉の夜明けといってもよいであろう。そして、昭和49年には女子のための自立援助ホーム「清周寮」が開設された。

これらはみな法の狭間にあって福祉を得られない青少年のために援助してきたもので、この援助が法をも動かしてきたのである。青少年福祉センターの動きはこれだけでは留まらない。自立援助ホームに入った子の中には精神的な問題を抱えた子どもも多かったため、任意団体を組織し(児童福祉法ではないため)、平成11年には精神的な問題を抱えた青少年のためのグループホーム「ノエル」をも開設する。そして平成17年に自立援助ホーム「おうぎ寮」、平成18年には「あけの星学園」の開設に至っている。「暁星学園」も「あけの星学園」も日本にはない高齢児童専門の児童養護施設である。ここまでを振り返ってみると、そのエネルギーの基となっているものは何だったのだろうか。長谷場先生や先生を支えてくださっていた理事の方々の心の中には「この困難な中にある子どもたちのために、私たちは何ができるであろうか」という問いであったに違いない。

私は慈善事業から福祉に移行するにつれ、私たちの心の中から「愛」が薄れていくことを感じる。先達の方々の理念は時が経つにつれ薄れ、形骸化していく。そういった施設を多く見る。

「Love is not enough」ではあるが、私たちの仕事にとってLoveが基になくは何も始まらない。

※II. 「これからの課題」は次号に掲載致します。



今回の施設紹介のページは、現場で活躍する新人職員の感想などを「新人職員紹介」として掲載し、施設利用者の様子を「利用者の声」として紹介します。

新人職員紹介

自立援助ホーム 清周寮

平木久美子

初めまして！こんにちは！
4月から清周寮で勤務しています、平木久美子と申します。

日々、分からない事だらけで周りの方々に迷惑を掛けながら頑張っています。先輩職員からは多くの事を教えて頂き、とても勉強になります。また、寮生達から学ぶ事も多く、寮生を「大人だなあ」と思う事が多々有ります。

ここで働き始めてからアツと言う間に時が過ぎましたが、まだまだ多くの事にぶつかると感じます。自分なりにがむしゃらにやっていたと思います！
未熟者ではありますが頑張りますので、ご指導の程宜しくお願いします！！



平木さん(手前右)

児童養護施設 あけの星学園

金城 幸代

私があけの星学園での仕事に携わるようになって約5ヵ月が経ちます。始めは分からない事ばかりで不安や戸惑いが大きく、子どもとの会話や日々の雑務など、やる事ひとつひとつに、これで良いのかと悩み、熟慮しながら行なっていました。今もまだまだ分からない事は多く、日々悩んでばかりですが、子どもたちひとりひとりをみることが少しずつ出来るようになってきたと思います。規則や制限、他児との関係など、様々な事を考慮しながら、子どもの一人ひとりの抱えている問題や自立に向けて職員としてどのようにサポートしていいのかなど、知れば知るほどこの仕事の難しさを感じます。以前に比べだいぶ慣れてはきましたが、まだまだ表面的にしか関わっていないと感じるところも多くあります。私自身、子どもや仕事に対してまだ受身の部分があるのだと思います。今後、もっと積極的に子どもたちに関わっていきながら、知識と経験を高めていきたいと思っています。

横山 賀大

私は、昨年9月末よりあけの星学園で働き始めちょうど一年が過ぎようとしています。中学生と高校生のみが生活し、数年後には自立を控えた児童に対して、自分への肯定感を持っていない児童に対して、どのように接すべきか、どのように支援すべきか、どのような距離感を保つべきか、日々子ども達と話しながら、時に真正面でぶつかり合いながら、模索する日々が続きます。指導員として自分の考える理想と現実のギャップに悩むことも多いですが、自分一人だけで問題を抱え込まず、今後とも職員同士で連携を取りながら、自分自身、人として成長していけたらと感じます。

最後にまだまだ未熟な私ですが、夢は、夫婦でグループホームを開設し、子ども達と一緒に生活しながら、合気道を教える事です。



横山さん(左)と金城さん

利用者の声

障がい者グループホーム ノエル

このインタビューはティーパーティーで2人のメンバーさんの協力を得て行われました。(インタビュー(世話人)イと表記、メンバーAさんとYさん)

- Q ノエルを利用して感じることは？
- A ここに『ただいま』と帰ってきて、毎日晩ごはんがいっしょに食べられる。確かにいろんなことがあるかもしれないけど**さん(世話人)が辞めないで来てくれるから。いやなときもいいときもみんなの気持ちの強弱がわかるようになった。
- Y 世話人さんは温厚な人がいい、落ち着いた人がいい！この人たちはみんな大人だもの、みんなといて楽しい。
- A みんなで外出したり外食したりできるしね。強制がないからいいよね！
- Y 強制は大変！疲れちゃう！正直言ってやだ！！
- A 自由がいい、私は強制はいやだ！
- イ 自由って何でしょうか？
- A 束縛されないこと。
- Y 今は自由。今以上は嫌。ほどほどでないと、自由がわからなくなるから。
- A 中学の途中から施設の外の中学校になった。施設の子ということでいじめられた。中学卒業するときはいじめの人たちから早く自由になりたいと、高校行かずに仕事をやりたいと思った。
- Y 高校は紡績工場で働きながら行くところだった。頭にきて、よく隣の家に糸巻きを投げていた。係長がいい人で、『言いたいことがあったら言ってきていいぞ』『飛ばすなら工場の中に飛ばせ』と言ってくれた。
- イ 10代で働いていると周りは気にかけてくれる？
- A 工場長とかよく声をかけてくれた。
- Y 学校行って教科書によだれたらしながら寝ていると、『それ、どかしてから寝ようね』といわれた。
- Q お二人にとってノエルは？
- A 帰る家。
- Y ノエルが家。
- A 『おかえり。』って言ってきて、お父さんが**さん(代表)で、**さん(世話人)さんが寮母さんって感じ。毎日いっしょにいるようになってから、ご飯を食べに帰ってくる家。
- イ ありがとうございます。

自立援助ホーム おうぎ寮

高校卒業と同時に養護施設から自立援助ホームおうぎ寮を利用する事になったチビちゃん。

チビはドラッグストアの社員として、働き始めました。しかし・・・だんだん痩せてきて～初めは喜んでいてチビでしたが、身体の不調を訴えるようになってきました。8時半に家を出て、店を閉め帰宅するのが10時半、そんな生活が1年4ヶ月続きましたが、とうとうチビは「疲れる。仕事を変えたい。自分の時間がもてない。」と言ってきました。相談の上、新たな挑戦を始めたチビに『おうぎ寮』の事を。。



チビちゃんのおもい

私は、少し休養をとって新しい仕事に就こうと思い求人広告を見たり、ハローワークに足を運んだりしていました。元々、医療に興味を持っていたので医療事務を探していたのですが、資格を持っていない私にとっては、とても厳しいものでした。そこで、職員との話し合いで学校へ通い資格を取得することに決めました。少しでも早く就職したかったので短期コースを選択しました。もう直ぐ二十歳を迎える私にとっては、自立をする前にこのようなチャンスはとても良い財産になると思っています。おうぎ寮での生活は人それぞれ違いますが、自分にとって成長できる場所だと私は感じています。もちろん、職員と意見がぶつかる事や寮生同士のトラブルもあります。規則があり、自由が少ない事に嫌気がさす事も多々あります。でも、そんな事も一つの経験なのかなあと思い日々を過ごしています。

これから自立しても、遊びに来たり相談をしに来たりできる場所にしたいと思います。



自立援助ホーム 新宿寮

「新宿寮と私」 N君(19才)

平成18年11月14日あけの星学園から新宿寮へ引越しました。新宿寮に来てから、これから新たな生活がスタートすると感じました。自分自身少し不安もありましたが、それは最初の方だけでした。

新宿寮では、今まで色々な事がありました。寮生と揉めたり、職員と言い合いになったりと、色々ありました。でも、それは自分自身の良い思い出です。

仕事面では、最初は調理の仕事をしていましたが、今現在、三井リハウスというところで、仕事をしています。それも良い思い出にしたいと、思います。たまには仕事を休んだり、続けて休みを取ったり、自分自身、情けないと思うところが沢山あります。でもこれからの自分は違います。最初の頃とは少し進歩したという所を職員、周りの人達に見せていきたいです。

来年の3月くらいには、一人暮らしを考えています。それまで、貯金を貯めて準備をしていきたいと思っています。新宿寮を出た後も相談事があったら気楽に遊びに行きたいと思っています。

これから、色々な事に挑戦していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いします。



写真の掲載は御本人の了解済みです。

児童養護施設 暁星学園

「暁星学園に来て」 Y君

僕の名前は Y、16歳です。僕の暁星学園での生活のことを話します。

初めて暁星学園に来て思ったことは、掃除や洗濯など食事以外のほとんどの家事を自分たちでやっていたり、中にはあるバイトをしている人もいて、自立を目的とした施設らしく大人っぽいところだと思いました。

僕は中学校で不登校を経験し、一年遅れで高校受験という形でここに入所したので、今は毎日受験にむけた勉強をして過ごしています。

初めのうちは自分の部屋に閉じこもり気味でしたが、今では友達もできて、とても楽しいです。

暁星学園は行事も多く、同じ階の人たちや学園全体で希望者を募って、色々な場所に出掛けたりします。

特にお台場のジョイポリスに行ったときが一番楽しかったです。



東京ジョイポリス行事にて



2008年 6月 28日 チャリティー大バザー開催決定

いつも青少年福祉センターの為に
ご尽力を頂き、有り難く感謝しています。

2008年も聖心インターナショナル
スクールを拝借して、隔年に1度の
バザーの開催が決まりました。子供
達を取り巻く環境は新聞等で紹介をさ
れる様に"虐待"が表面化し、子供のケ
アが益々難しくなっています。行
政からも援助をしては下さいますが、
それだけでは子供達の心の傷を癒した
り、良き環境を与えるのには不足で、
自助努力の一環としてバザーを企画し、
少しでも多くの方にセンターの存在を
知って頂き、ご支持を頂きたいと願っ
ています。

今回は10回目という節目の時であ
り、青少年福祉センター自体も活動を
始めて50年となります。いつもに増
して理事、職員、ボランティア、そし
て子供達が後援会の皆様と力を合わせ
て成功に導こうと準備を始めています。

創始者長谷場の子供達に対する思い
を綴った"長谷場語録"も出来上がります
ので、DVD映像を流し、センター
の歩みもご覧頂く場所を設けています。
又、ライブ音楽や占いなどの楽しい企
画、そしていつもの様に新品衣料雑貨
も多数用意しています。勿論、ラッフル
も充実した賞品を用意するべく準備
をしています。

皆様方の暖かいご協力をよろしくお
願いいたします。

バザーに関するお問い合わせは
下記までお願い致します。

本部：東京都足立区扇1-12-10
電話 03-3856-2728

ラッフル賞品を募集しています!

航空券・ホテル宿泊券・お食事券
パソコン・電化製品・デパート商品券
高級バッグ・高級腕時計・デジカメ等

入場券に付いているラッフル券の賞品次
第で、入場券がたくさん売れます。
そこでラッフル賞品を大募集しております。
貴社へ打ち合わせに参りますので、お気
軽にご連絡ください。

品物はそちらまで取りに伺います。
なにとぞよろしくお願ひいたします。



**ホワイトエレファント商品も
同時に募集しています!**

ご家庭内に眠っている掘り出し物の食器や
衣類等ございましたら、ご寄付ください。
バザー会場にて販売いたします。



皆様からのご寄付お待ちしております

ボランティア紹介

児童養護施設 暁星学園

菊水ヘアー【ヘアーカットボランティア】
アシスタントがカットの経験を積むた
めにとのこと、そして子ども達にも喜
んでもらえればいいなとボランティアを
始めました。
未熟な技術にもかかわらず早くカット
させて頂いて感謝の気持ちで一杯です。
ありがとうございます。



星野さん、米山さん

【アロママッサージボランティア】



星野さん

はじめまして、
星野美紀です。
子どもが1歳と
3歳の男の子
のお母さんです。
子ども達に会い
に来るのが楽し
みです。



米山さん

自宅でアロマ
サロンをやっ
ています。初め
て暁星学園でア
ロマトリートメ
ントをさせて頂
きました。とと
も新鮮で楽しい
ひとときでした。

児童養護施設 あけの星学園

ドレスナー・クライノオート証券会社
東京支店の皆さん



バーベキュー・ラフティング・花火大会
などの行事にご招待していただいています。
外国の方とのコミュニケーションは児童
の世界観を広げていただいております。

渡辺さん(写真左)某国立大学の4年生
岩崎さん(写真右)某国立大学大学院1
年生【学習ボランティア】

学習ボランティアとしてそれぞれ毎週一
回、来園していただきます。日常の予習
復習も教えていただいておりますが、テス
ト前にはたくさんの児童が勉強を教えて
もらっています。



渡辺さん

岩崎さん



山本さん

【ヘアーカットボランティア】

六本木で美容室を経営
なされています。
あけの星学園に美男
美女が急増中。

自立援助ホーム 新宿寮

木下かずえさん
【調理ボランティア】



夕食ボランティアの木下かずえと申します。楽しんで夕食を作っています。どうぞよろしくお願ひします。

自立援助ホーム 清周寮

為永さん
【調理ボランティア】



元気な寮生から沢山元気をもらっています。

三上さん
【調理ボランティア】



子どもたちに会うのが最高にうれいす。

日向ぼっこ 紹介

日向ぼっこ代表 廣瀬 さゆり

はじめまして！今年の4月から新宿寮の1階をお借りしている「日向ぼっこ」です。はて、「日向ぼっこ」とはなんでしょう？何か冠をつけるのであれば「児童養護の当事者参加推進団体」です。実際に施設で生活していた私たちが中心となり、児童養護施設や自立援助ホームで生活していた人たちが退所後必要以上に孤立感を感じなくても済むような居場所を作ったり（日向ぼっこサロン）、行政や施設に「施設のこういうところはおかしい！」などと意見表明をしたりしています（最近ですと厚労省の専門委員会にて現行制度への要望を訴えました）。

「日向ぼっこサロン」は毎週火・木・土曜の16～21時・日曜の11～17時に開館し、みんなで料理を作って食べたり、テーマを持って真剣に話し合いをしたりしています。

施設で生活した私たちが抱えざるを得なかった生きづらさの大部分は、私たちの所為ではありません。しかし、私たちは親がいなかったこと・親から大切にされなかったこと・むしろその逆の行為を親からされたこと、また特殊な育ちをしたこと（税金のお世話になって生活することなど）に後ろめたさを感じています。なぜかと言うとそんな経験をしている人は少数で、一般的ではないからです。人に自慢できるようなことではなく、現状では「かわいそうに」と気の毒がられてしまうことだからです。なので、そんな私たちが集まると、まず「自分は別におかしくないんだな」と気付くことができます。私は日向ぼっこの意義はそれだけでも十分だと感じています。

欲を言うて来てくださる方々が「みんな色々ある中で頑張っているんだ。私もとにかく前に進もう…！」と自然に勇気や活力を得られる場所にできればと思っています。開設して丁度今日(10月21日)で半年が経ちました。振り返りを大切にし、そんなサロンに近づいていきたいです。皆様からも叱咤激励のお声をいただけると幸いです。

日向ぼっこ (廣瀬)

日向ぼっこサロンの風景



問い合わせ先 hinatabokko@yogo-shisetsu.info

新宿寮窓枠改修工事完了

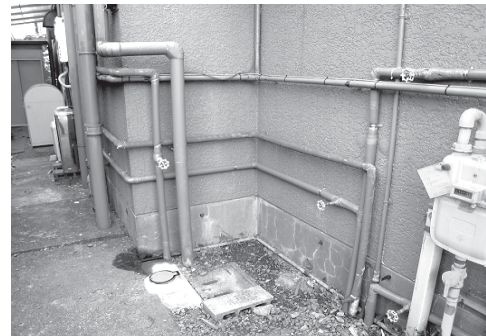
昨年度「日向ぼっこ」支援費として財団法人SBI子ども希望財団様より頂いた資金の一部を本工事の協力金とすご了解を頂き、そして東京都の建物改善に対する補助金も受領できることとなり、やっと、



老朽化した窓枠をアルミサッシへ換える工事を着工することができました。10月末に足場が取れ工事が完了しました。この場を借りて関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

清周寮給水配管工事

長い年月が経ち、老朽化していた水道管がこの度、新しく取り換えられました。アメリカンクラブ様より戴いた資金を使わせていただけることとなり、本工事を着工することができました。9月下旬から始まった工事も10月上旬に完了いたしました。この場をかりまして、ご寄付を戴きましたアメリカンクラブ様、そしてこの工事をご支援くださった皆様に厚く御礼を申し上げます。



歳末のお願い

青少年福祉センターは、来年で事業開始から50周年の節目を迎えます。事業開始当時は、アパートの一室からスタートしたセンターも、今では、自立援助ホーム3施設、児童養護施設2施設、障がい者グループホーム1施設を運営するまでに大きく成長致しました。

これは皆様方のご支援あってのことと、役職員一同感謝しております。

青少年福祉センターの運営のため、その運営資金を補助金やバザー収益にて賄っておりますが、それだけでは資金が不足しております。

その多くの不足分を後援者の皆様からの寄付金に頼って活動しております。

毎年のごことで恐縮ではございますが、何卒子ども達のためにご支援下さいますようお願い申し上げます。

郵便振替

00170-4-96636
社会福祉法人 青少年福祉センター

編集後記

「センター通信」は今号より、紙面のデザインを変更しました。紙の大きさがB5からA4へと変更し、表記は縦書きから横書きに変わりました。声は皆様方に読みやすくなるためなのですが、いかがでしたでしょうか。

後援者の皆様に、青少年福祉センターの活動をわかりやすく伝えられるよう紙面を工夫していきます。どうぞよろしくお願い致します。